



平成 22 年 4 月 22 日

先進的国際人育成システムの構築

概要：社会文化科学研究科では、激化する国際地域間競争と今後深まる東アジアの相互依存を見据えて、平成 22 年 4 月、学術交流の拠点施設として「東アジア国際協力・教育研究センター」を設置した。また、中国の吉林大学および東北師範大学と協定を結び、中国の大学と岡山大学の博士学位取得ができる国立大学(文系)にほとんど例がない「博士後期課程ダブル・ディグリー制度」を創設した。これらは東アジアにおいて政治、経済、文化領域における協力を進めるリーダーとなる人材を育成しようというもので、国境を越えた東アジアにおける一層緊密な協力・協働を進める上で重要な責務を担う取り組みと期待される。

また、研究分野では、学内 COE プログラム「越境地域間協力教育研究拠点づくり」の研究成果として、3 巻の研究書を刊行した。

1) 学術交流の拠点施設 東アジア国際協力・教育研究センターの設置

平成 22 年 4 月、人文社会科学分野の学術交流拠点施設として、『東アジア国際協力・教育研究センター』を設置しました。社会文化科学研究科に附置されるこのセンターは、東アジアの有力な大学と協力して、研究スタッフや大学院生の相互交流、共通科目、共同ワークショップ、国際シンポジウム等を企画し、それらを通じて東アジアの地域間協力の基盤を培う多方面にわたる専門家を共同で養成することを設置目的にしています。

当面は、既に O-NECUS 協定校である中国の吉林大学、東北師範大学との交流を維持発展させつつ、今後は中国の北京中央財経大学および山東大学、韓国の高麗大学、成均館大学および国民大学、また EU においても本年度中にフランスのストラスブール大学との学術協力協定を締結する予定です。これらを生かし、EU の地域統合にも学びつつ、東アジアの地域間協力や相互理解を促進し、東アジア地域の未来を切り拓く人材育成の拠点となることを目指します。資料あり

2) 『博士後期課程ダブル・ディグリー制度』の実施

大学院博士後期課程において、中国の吉林大学または東北師範大学と岡山大学の両大学の博士学位取得ができる国立大学(文系)にほとんど例がない『博士後期課程ダブル・ディグリー制度』を創設しました。

この制度は学術のグローバル展開に対応すべく大学院生を国際的環境の中で養成するもので、3～5 年間という短い期間と少ない経済的負担で両大学の博士学位取得ができ、かつ国際的で高いレベルの研究ができるという制度です。資料あり

3) 学内 COE プログラムの成果の研究書(全 3 巻)の刊行

平成 19 年度から 21 年度まで 3 年に及ぶ学内 COE の学際的研究プログラム「越境地域間協力教育研究拠点づくり」の研究成果として 3 巻の本を刊行しました。第 1 巻は『「地域統合」—ヨーロッパの経験と東アジア』、第 2 巻は、『地域間の統合・競争・協力』、第 3 巻は、『東アジアの「もの」と「秩序」』です。

これらは、社会文化科学研究科が東アジアや EU 諸国の諸大学と共同で開催した国際シンポジウム、国際ワークショップの研究報告に基づくものが中心になっています。見本あり

<お問い合わせ>

岡山大学大学院社会文化科学研究科

研究科長 荒木

(電話番号) 251-8670